

2009/03/21

文化遺産 Bhaktapur の保護

Mr. Om Amatya

5 Keywords: 文化遺産、保護、観光、歴史、パクタプル

本講義はカトマンズから東へ 12 キロ、カトマンズ盆地で三番目に大きい街バクタプルにおいて、実際その景観を目の前に、町全体の歴史、文化遺産などの説明を受けた。一度は盆地全体の首都でもあったバクタプルは 15 世紀から 18 世紀にかけてのマラ王朝時代に三王国の首都の一つとして最盛期をむかえた。そしてネパール文化とともに大発展をとげた。景観は赤茶色のレンガ造りの建造物がびっしりならぶ。町への入場は観光客一人につき 750 ルピーかかり、この資金は文化保護基金として利用される。街の中では、おもにタルジュ寺院、バルサラ寺院、パシファティ寺院、ニヤタポン寺院、ビンセン寺院などを実際に観察し、レクチャーのもと各々の歴史、背景などの説明を簡潔にうけた。特に印象深かったのがニヤタポラ寺院である。1934 年の大地震の際も倒壊することがなかったという歴史をもつ、1970 年代にドイツの研究者が建築物の構造について調査を行ったら、構造学的に非常に耐震性が強い構造をしていることが報告された。伝統的な建築技術の高さをうかがうことができた。

(記録：田中利和)